資料２－１

# 第１回みやぎ観光振興会議でいただいた御意見等について

## １　全体会議

【日時】令和２年６月５日（金）１３時３０分から１５時４５分まで
【場所】県庁４階特別会議室

【委員からの主な意見】

① コロナからの回復のため，まずは県内・国内の需要喚起から始めるべき。これまで海外に行っていた人が，今後は国内に目を向ける可能性がある。
② 宮城は安全・安心だということを，デジタル等を活用し，早急に対応すべき。
③ コロナの影響によりこれまでのビジネスモデルの転換が迫られている。
④ 安全・安心がキーワードだとすると，住んでいる人がそう思わなければならない。
⑤ 東日本大震災では，それぞれのネットワークが強くなったが，コロナではネットワーク自体が失われたので，ネットワークの再構築が必要。
⑥ 震災や災害等により崩壊したコミュニティの復活，地域の活力の再生などの取組が必要。
⑦ 無担保融資等はあるが，あくまで延命措置なので，特化した支援が必要。
⑧ 仙台七夕祭りなど，多くのイベントが中止になったが，再開あるいは別な形で実施できるよう支援を検討してほしい。
⑨ 震災体験コンテンツの充実など東北・宮城の優位性を打ち出す取組が必要。
⑩ 県から説明のあった安心・安全の取組は，秋保・作並でも先行的に行おうと思っていた取組であるので，ぜひ早急にチェック表の作成等に取り組んでいただきたい。
⑪ 観光バス三密を避けるため増便の必要性があり，補助制度など手厚い支援が必要
⑫ 空港としても安心の取組の設備投資や空港で発生した感染者の受入体制などの準備が必要。
⑬ 短期的には知名度のあるキラーコンテンツで国内流動を戻し，中長期的にはインバウンドなどは，より深い体験型観光等の取組が必要。
⑭ テレワークと家族単位の旅行需要をキーワードに，テレワークとワーケーションの観光地づくりを進めていくのはどうか。
⑮ 外国人の目線でも，安全に移動し過ごせるかが重要。ガイドラインは，最初から海外の情報や国際基準を取り入れながら策定するべき。
⑯ 海外からの誘客には，現地の安心の取組（例えば病院のリスト）等を周知すべき。
⑰ 新しい生活様式でお客様をもてなすための施設の改修に対して支援する制度を設けてはどうか。
⑱ 空港の再開に向け，移動及び宿泊に向けた不安の払しょくを行うことが必要。
⑲ 今後の観光戦略としては，着地施策を中心に構成するべき。
⑳ 回復戦略は，「みやぎ絆むすび丸プロジェクト」などといった，絆を再構築するといったイメージがあるといいのではないか。

## ２　圏域会議

### （１）仙南圏域会議

【日時】令和２年６月２２日（月）１０時００分から１２時００分まで

【場所】大河原合同庁舎４階大会議室

【委員からの主な意見】

① 安全安心対策コストへの支援や対策（宮城県としての具体的な取組み）の情報発信が必要。いかに安心につなげるか，マインドの部分が重要。

② 感染症対策をした上で営業している旨をSNS等で，近県の顧客へ葉書による案内でPRし，ようやくお客様が来てくれつつある。

③ 体験・「コト」消費の推進が重要。観光資源の掘り起こしや磨き上げが必要。

④ MaaSと関連付け，密にならない，混雑しないという安全・安心情報の共有化・ネットワーク化をするべき。

⑤ 仙南地域の一体的なポータルサイトによる情報発信を行ってほしい。仙南地域ECサイトの立上げなど。

⑥ No密観光のための朝型観光へのシフト，温泉オフィス，温泉でのワーケーションが重要。

⑦ 入湯税を活用した温泉街の活性化，イメージ向上やバーチャル観光を動画で配信してはどうか。

⑧ 少ない収容人数・売上の中で利益を出すための経営体質改善とそのための支援策が必要。

⑨ 行政側で支援メニューを用意するのではなく，それぞれの事業者がやりたいことに対する支援が必要。

⑩ 先々のインバウンドの対象として，さらに国際交流の観点から，現在生活に困窮している外国人留学生対象のツアー企画などを行ってはどうか。

⑪ インバウンドの取組について，手法を再検討するべき。

⑫ 自転車での移動も多いことから，サイクルツーリズムの呼び込みが必要。

⑬ 仙台，県内，東北といった近隣の客が戻ってきている。マイクロツーリズムの視点が必要。特に仙台をマーケットとして見なす必要がある。

⑭ 多くのお客様に来ていただきたいが，マスクをしていない方もいるので対策をしていくにあたり，不安もある。

⑮ SDGsの考え方は，世界的な指標であり，今新型コロナウイルスの回復の考え方にも当てはまる。

⑯ 現状，観光統計調査は観光客入込数での計測だが，正確な実態把握のため売上高で計測できないか。

### （２）仙台圏域会議

【日時】令和２年６月１８日（木）１３時３０分から１５時４０分まで

【場所】仙台合同庁舎１０階１００１会議室

【委員からの主な意見】

① 地元の人が地域の魅力を知り，その魅力に対するシビックプライドを持つことで，一人一人が

「観光マン」となるような機運を醸成する啓発活動を実施する。

② 仙台市は、転出入者が毎年それぞれ４万人を超えている。転入者は新しい見込み客となる。転出した方は転出先で宮城県、東北を発信していただければ有効なピーアールとなる。

③ 感染対策を実施している事業者が貼りだせるようなステッカー・標示等を迅速に配布する。

④ 感染防止対策の徹底に向けた設備投資への補助など，受入態勢の整備が必要。

⑤ 感染対策の基準や，イベント開催の判断指標を示す。

⑥ 「マイクロツーリズム」として，仙台圏域内，宮城県内や東北＋新潟県の中で交流人口を増やして行くためにどうすれば良いのか。

⑦ 公共施設（博物館・美術館等）や公共交通機関への補助や無料化を実施し，街歩きを促す。

⑧ 中長期的視点に立って，５Ｇ環境整備への支援・補助を行う。

⑨ 震災や今回のコロナの影響により借入金は増大しており，影響が長引いた場合，半年から１年後に事業が成り立っているのか心配。

⑩ 仙台圏域は、仙台市を核として宮城県さらには東北にとって大きな影響力を持つ地域である。それだけに、様々な分野で仙台市と今こそ一枚岩となってどの様な連携が可能かについて検討することが必要と思う。

⑪ 安全安心対策を実施したものの，情報発信ができていない。

⑫ 新型コロナウイルスの早期の収束を図り，アフターコロナの準備をして行かなければならない。

⑬ 県民に安心感を与える対策をきちんと実施しているという情報を発信して欲しい。

⑭ 団体客や宴会客を取り込むのが難しくなっているので，対策を考えなければならない。

⑮ 県内や東北のお客様に対し，宮城の魅力を県や地元の人間がどんどんＳＮＳ等で発信するなどの話題造りが必要。

⑯ マイカーで来る個人のお客様が多いが，将来的にはバスの普及は不可欠。

⑰ 来年は東北ＤＣなので，プレＤＣ企画など，日本中から注目を浴び，取り上げてもらえるような情報発信が必要。

**（３）大崎圏域会議**

**【日時】令和２年６月２９日（月）１３時３０分から１５時４５分まで**

**【場所】大崎合同庁舎１階大会議室**

**【委員からの主な意見】**

① 大規模な旅館では，県内の宿泊客だけでは採算ラインを確保できないことから，関東方面からの宿泊客の誘客を進めていきたい。

② 新しい生活様式が定着して行く中，安全・安心に重点を置いたおもてなしが必要だが，経費も人手もかかる。今後，客足の動向にかかわらず，公共料金や管理費等の固定経費はかかるので，どのように収支バランスをとっていくかが経営上の課題である。

③ コロナ禍において，旅行需要を高めていくには，受入側の地域とも連携した旅行や外出をしようといった観光機運の醸成が大事である。

④ スポーツレジャーはここ 10 年で最も伸びており，資源投下しマーケット化して行きたい。ま

た，観光振興を進めていくためには，消費者動向の分析やマーケットの誘導が必要である。

⑤ 行動のエリアが広がれば不安も広がる。ステップ１～３も県外移動が一気に全国まで広がっているが，もう少し段階を丁寧に細かくして行く必要があるのではないか。

⑥ 東北六県内の旅行等を対象にした支援策があると良い。

⑦ 感染拡大防止とトレードオフが大事であるが，来てくださいと言えない中で，どのようにして誘客するのか。そのためには，地域の底力として魅力アップや職員のおもてなし教育が重要と考える。

⑧ 近隣地域との連携により，観光客を周遊できるようにしたい。また，地元の人に地元の魅力を知ってもらえるような取組みが必要である。

⑨ 国・県・市町村が地元の意向に沿いながら，有効的に活用できるような観光振興事業の制度設計を検討いただきたい。

⑩ 健康を売りにしたワーケーションを推進したいが，鳴子温泉は，硫黄ガスにより電子製品等の劣化が早いので機器の更新費用がかかるので，支援してもらいたい。

⑪ 市町村では人員が不足していることから，県が観光需要を拡大のため，観光のＣＭを作成・放送していただきたい。

⑫ 鳴子温泉で休前日に花火を打ち上げる場合，誘客支援として県が支援できないか。

⑬ 大きなマーケットである教育旅行について，関東から東北への方面変更など問合せ増えてきており，バス利用が三密回避のため台数増による経費増が見込まれることから，インパクトのある助成をお願いしたい。

**（４）栗原圏域会議**

**【日時】令和２年６月２５日（木）１３時３０分から１５時３０分まで**

**【場所】栗原合同庁舎３階第一会議室**

**【委員からの主な意見】**

① 観光施設に係る新型コロナウイルス対応に係る「ガイドライン」を，一刻も早く作るべき。

② これからは，他人との接点の少ない，限られた範囲の人だけで旅行が多くなることを予想しているが，栗原市は，密集が少ないので，適性がある地域なのではないか。

③ 栗原のお酒を栗駒山でキャンプをしながら楽しむ，宿泊を伴うようなイベントや，少人数で，栗原のお酒を飲んで一つ知識もつけて帰ってもらうようなツアーなども提案できれば良い。

④ 新型コロナ以前のように他県からや，インバウンド等による誘客はリスクが高いので，「県内の人が県内で楽しむ」ということに力を入れたらよいと思う。

⑤ 地元で田植え体験等，地元の方々が楽しめるような，地元の方々のモチベーションを上げていく取組みを続けていくと，他の地域や外向けの良いＰＲになるのでは。

⑥ 栗原地域は，もともと宿泊客が少ないので，観光コンテンツの充実を先に考えた方が，効果が大きいのではと考えている。

⑦ 「観光産業の危機管理体制」について，このような状況下において，元に戻すだけで良いのか，新しい視点を取り入れて，関連産業との協調を図りながら進めるのが良いのか，今後の大きな課題と思っている。

⑧　圏域から出られないということであれば，圏域内の移動が重視されてよいのでは。３０分から１時間の間で行き来できるような圏域内で完結する観光も大事と思う。

⑨　「ふるさと教育」，「郷土愛」を身につける必要があると感じており，ふるさと教育による郷土愛の植え付けが必要と考えている。

⑩　栗原市出身者（アンバサダー）やふるさと会の方々に，故郷への支援をお願いしたい。

⑪　各施設等の新型コロナの安全対策について，圏域として，もっとＰＲしてはどうか。「新たなもてなし」について，みんなで考え，作っていくという取組みが必要。

⑫　インバウンドは，現状、非常に少ない。昨年，「Visit MIYAGI」に情報を初めて掲載したが，どのような結果になるか期待をしていたが，コロナの影響でダメになった。

**（５）登米圏域会議**
**【日時】令和２年６月２４日（水）１０時００分から１２時００分まで**
**【場所】登米合同庁舎５階５０１会議室**

**【委員からの主な意見】**

①　登米市は農業大国なので，農業体験，農泊も含めて活用できれば，他地域にはない登米独自の観光コンテンツができるのではないか。

②　新たに関係人口に取り組むため，企業の社会貢献活動，福利厚生，社員研修等の受け入れを進めたいので，行政の力を借りながらぜひ実現していきたい。

③　欧州のボート会場はリゾート化しており，オリンピック出場国の受入，支援にとどまらず，長沼をリゾート化する夢があってもいい。

④　クラウドファンディング２割増しではインパクトに欠ける。企業側に負担を求めてもいいので，もっとインパクトのある設計にしてほしい。

⑤　風土マラソン等のイベントに外国人も含め県外客の参加が相当数あるものの，イベント参加のみで終わってしまう。登米市産の食，飲が楽しめる，農業体験もできる観光コンテンツ等を造成し，参加客等の市内観光地等への二次誘導と宿泊者の増加につなげる取組が必要。

⑥　今までは，農業だけ，観光だけ，イベントだけでやっていたのを横に線をつないで一緒に自分事として，観光振興に取り組むことが必要。

⑦　登米市は自然にあふれており，自然から商業施設への距離も非常に短く，キャンプやアウトドアに非常に適している地域。登米市の強みを活かした地域マーケティングが必要。

⑧　登米市は二次交通の問題を抱えており，客に乗ってもらえるルートづくりが必要。

⑨　朝ドラの収録がされるのでロケ地ツアーと農業体験を組み合わせたツアー造成も良い。

⑩　個々で観光や，地域活動，まちづくり活動する人が沢山いるが，個人単位での実現は難しいため，意見やアイデアを集約して，まとめて良いものを作り上げてくれるリーダーが必要ではないか。

**（６－１）石巻圏域会議**
**【日時】令和２年６月１２日（金）１４時００分から１６時００分まで**
**【場所】石巻グランドホテル鳳凰**

【委員からの主な意見】

① 松島と比較し，石巻の強みは海産物等の「食（食べ物）」ではないか。
② 体験型コンテンツ（ワカメの収穫や島巡り等）の整備が必要。
③ 「適疎」のフレーズを利用し，観光戦略とすべき。
④ 東松島のオルレについては，４月と５月でも一定程度の需要はあった。野蒜，宮戸八景等のオルレ中心に，３密を回避したコンテンツが好まれるのではないか。
⑤ 震災のボランティアなど，心理的なつながりによる関係人口にアプローチしたらどうか。
⑥ 防災と観光の視点，観光客受け入れのための安心・安全の可視化が必要。
⑦ いざ観光に行こうとなったときに，心理的な壁（世間体）が気になる。地域も含めて旅行に行ってもいいという雰囲気や学校における休暇の分散化など旅行しやすい環境づくりが必要。
⑧ オンライン体験の充実も観光の入口になる。
⑨ ピンチをチャンスに。今がマイクロツーリズムのチャンス。
⑩ ステークホルダーが多い体験型観光や，コロナ禍によるワーケーションの環境整備により，交流人口や関係人口を増やす取組を実施すべき。
⑪ 東松島市の他にはない特徴として SDGs 未来都市，「スポーツ健康都市宣言」や防災・観光教育施設などがあり，関係者が連携して取り組むことが必要。
⑫ 「駅から観タクン」「定期観光バス」「デジタルによる情報発信」など既存の情報の整理・発信のほか，県の「みやぎ応援ポケモンのラプラス」を活用できないか。
⑬ 広域的に食材などをテーマに同時イベント開催などで観光客を呼んではどうか。
⑭ 地域の観光スポットなどをつなげ，ターゲットごとにコースを設け，その中で交通や宿泊施設を利用してもらうと良い。
⑮ 小さな観光が豊富にあることが大事で，全員がプレーヤーとして一体となって取り組むことが必要。

**（６－２）石巻圏域会議**
**【日時】令和２年６月２６日（金）１４時００分から１６時００分まで**
**【場所】ＫＩＢＯＴＣＨＡ多目的室**

【委員からの主な意見】

① 適疎の表現を工夫し，観光客へ訴求していく。松島などの密から疎へなど訴え足を延ばしてもらう。
② 適疎と石巻は親和性がある。ただ，適疎だと思って来たらそうでなかったとならないよう，適疎の定義を議論する必要。適疎の取組がビジネスモデルとなるよう石巻をブランド化してはどうか。
③ 当面，家族単位の旅行になるが，ゆとりのある子育てが終わった世代をターゲットにすると良い。
④ 車のない人や，ＪＲで来ると二次交通が必要。地域を巡るオプショナルツアーが必要。
⑤ 観光と体験，食を組み合わせたオプショナルツアーを沢山つくり，選択の幅を広げる。
⑥ 数日掛けて周遊してもらうエリアになるよう地域のつながりを検討する仕組みも必要。

⑦　ボランティアから移住した方や，Ｕターンした方など，優れたコンテンツを持っているが，得てして組織と組みたがらないので，こちらから繋がりにいく必要がある。
⑧　金華山参りで金持ちになれることを関西でＰＲすれば，格安航空もあり観光客が見込める。仙台空港からこの地域へのバスを整備できないか。
⑨　島を観光資源と考えると，航路を乗り継ぎ移動できる仕組みはどうか。
⑩　情報発信が大切である。既に素晴らしい観光素材があり，それぞれの分野で頑張っている。旅行者への届け方が課題である。
⑪　旅行業者など地元以外の方の意見を聞くべき。石巻地域は素晴らしいという方は多い。
⑫　専属に人を雇い，ＳＮＳの発信や，リアルタイムで対応するコンシェルジェとする。
⑬　オンラインコンテンツは採算をとるのは難しい。地域の魅力発信などＰＲ的な要素が高いので，公的な支援があると良い。食材のほかタクシー券を送るなど観光してもらう仕組みはどうか。
⑭　ワーケーションについて，民宿や学校の空きスペースを利用し，さらに，自然を楽しむ。来年，オリンピック開催中に，企業の皆さんを事務所ごと，宿泊施設などへの誘致に取り組んではどうか。
⑮　若柳出身の有名な脚本家に，地域の魅力再発見など提案をしてもらうと良いと思う。
⑯　東日本大震災により人口が減り，人員的に不足を感じる。コンテンツも大事だが，最終的にはサービス，おもてなしをする人も大事だと思う。

**（７）気仙沼・本吉圏域会議**
**【日時】令和２年６月１８日（木）１３時３０分から１５時４５分まで**
**【場所】気仙沼合同庁舎１階大会議室**

**【委員からの主な意見】**
①　クラウドファンディング事業は，複雑で利用しづらく事業者の規模や情報発信力により差が出る可能性がある。割引券の発行等分かりやすい支援策にすべきである。
②　コロナの前に単に戻すのではなく，今後同様の事態が発生した際に，国や県の支援を待ってというのではなく，今回の経験を生かして新しい観光のモデルをつくるべき。
③　新しい生活様式に対応するための施設の改装費用，衛生用品購入等に対する助成制度が必要
④　関東圏との行き来自体がまだ躊躇されているので，まずは近場の観光客からの誘致から始めることは有効。近場での観光需要をどうするのかが取り急ぎの課題。例えば県南地域と県北地域間相互の誘客を促進する利用券の発行など。
⑤　登米市，栗原市，岩手県南部地域との広域連携観光商品の造成。
⑥　マリンスポーツ，釣り，キャンプ等アウトドアなど密を回避する観光資源と宿泊・食事をセットにした観光商品の造成
⑦　密を回避したリモートワークや副業・兼業の拠点など，首都圏から地方へ流動する可能性があり，地域の一つのチャンスになり得る。そのために，きっかけをつくり，関係人口の構築が必要。
⑧　宿泊業者だけではなく飲食店に対する支援も必要である。

⑨　三陸道全線開通，NHK 朝ドラの舞台，南三陸の震災復興祈念公園の全面オープンなど，圏域の強みがある。

⑩　小さな施設だと生活基盤と事業基盤が共有。感染症予防対策を万全にしても完全に防止することは出来ない。第２波，第３波に備え，施設内で感染症が発生してしまった場合の県としての対応策等を示してほしい。

⑪　圏域の観光資源を，どのように情報発信していくかが課題。

⑫　中長期的な課題として，これまでのキャンペーンなどの検証が必要。